

「大きな目標のために、
小さな積み重ねを続ける」

希望郷いわて国体・フェンシング競技
成年男子フルーレ優勝

佐々木慶将選手兼監督

PROFILE / ささき・よしまさ 1991年、花泉町生まれ。国体選手だった父(佐々木満少年女子監督)の影響で小5からフェンシングを始める。工藤伸也・藤野大樹両選手と共に県勢国体初優勝をつかみ取る。働きながら練習に励む社会人アスリート。好きなアーティストはEXILE。趣味はドライブ。



SPECIAL MESSAGE

「開始、緊張で苦戦した。佐々木慶将さんは国体を振り返る。「でも、声援が力になり、気持ちを切り替えられた」と地元応援に感謝する。決勝戦の淡路卓選手はロンドン五輪の銀メダリスト。先輩に励まされ、「自分が決める」と無我夢中で攻めた。優勝という結果に「県民に希望や感動を与えることができたと思う」とはにかんだ。

仕事とトレーニング。両立はできないと思う時期もあった。発想を変え、限られた時間で鍛えられるメニューを考案した。1分1秒を大切にすることを意識した。

「もつと強くなりたい」と話す佐々木さん。まずは国内大会で確実に勝利を目指す。「大きな目標を実現するために、小さな積み重ねを続ける」と意気込む。

来年は愛媛国体、4年後は東京五輪が控えている。スポーツはこれからさらに盛り上がる。飛躍に向け、アスリートたちは前を見据えている。

さらなる飛躍に向けて

4. 千客万来、伝える感謝

大会期間中、全国から多くの選手、監督や観客が一関に訪れた。彼らを心からもてなし、感謝を伝えた「オール一関」のスタッフたち。国体の裏舞台を写真で振り返る。



1 JR一関駅西口に開設した総合案内所 / 2 市総合体育館に開設されたゲートでは「おもっち」が出迎える / 3 選手や監督を乗せて試合会場へ向かうシャトルバス / 4 「いわて南牛」の串焼きなど一関の食を堪能する選手 / 5 祝い餅つき振舞い隊が餅の魅力をPR / 6、7 9月25日に行われたデモンストレーションスポーツの「スポーツ吹矢」と「バウンドテニス」 / 8 会場に続々と詰めかける地元の小学生 / 9 一関の自慢の餅を振る舞う / 10 競技の進行を支えた競技補助員 / 11 地元住民と選手とのふれあい / 12 沿道に飾られた鮮やかな花々 / 13、14 市内小中学生が手作りした都道府県の応援のぼり旗と、その制作風景 / 15 JAいわて平泉が新米を提供した選手用の弁当 / 16 千厩体育館近くに地元自治会が設置した手作りの看板 / 17 千厩体育館で行われた入山沢餅つき隊による餅つきパフォーマンス / 18 コートをモップがけする競技補助員 / 19、20 バレーボール競技会場の千厩体育館と花泉体育館 / 21 極上の笑顔でもてなす売店関係者 / 22 つきたての餅の振る舞い / 23 国道の清掃活動を行う県トラック協会一関支部 / 24 大黒舞を披露した老松小の児童ら / 25、26 選手の体を潤す無料ドリンクコーナー / 27 市内各地に掲げられた歓迎ののぼり